



共通教育通信

KYOTO UNIVERSITY

vol.2
2004 SPRING



スナップ写真大募集!!

キミの撮った写真が次号の表紙になるかも・・・

「共通教育通信」では、スナップ写真を使って表紙を制作しております。日常の何気ない風景、最近興味があるもの、友達とのスナップなど何でもかまいません。みなさんがカメラ付き携帯電話（デジタルカメラでも可）で撮影した写真を下記アドレスまでお送りください。

京都大学共通教育推進部
E-mail : kouhou@kmail.adm.k.kyoto-u.ac.jp
(TEL : 075-753-6509 FAX : 075-753-6691)

なお、お送りいただいた写真すべてを掲載できない場合がありますのであらかじめご了承ください。
著作権や肖像権の問題により掲載できないものもあります。著作権の確認、人物を撮る場合には掲載の承諾をもらってからお送りください。

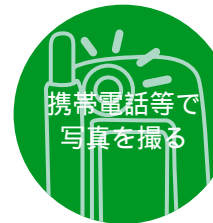
表紙の写真紹介



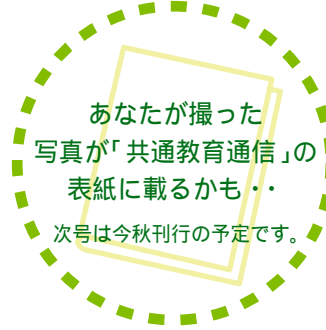
1. 附属図書館前
2. 13. カンフォーラ
4. 18. 総合博物館前
5. ルネ書籍売場
6. ショップルネ
7. 10. カフェテリアルネ
11. 17. 京大ショップ
8. 時計台の橋前
12. 19. 時計台生協ショップの広場
14. 教育学部1回生撮影：京大に東大と名のつくところがっ!(笑)
15. 吉田神社
16. 時計台生協ショップの自動販売機前
20. 正門付近の池

同じ写真を拡大縮小して複数回使用していますので、写真の番号が重複しているものもあります。

表紙に使用する写真撮影にご協力いただきありがとうございました。



撮った写真を
左記アドレスへ送信



写真には必ずメッセージ・所属・学年（全て含めて50文字以内）を添えてください。



副学長
大学院文学研究科教授
金田 章裕 (きんだ あきひろ) 1946年生まれ
研究分野：人文地理学、歴史地理学

明治九年(一八七六)に、地租改正の二環として字の統廃合を行い、二十五の字を確定した。その中の一であった。
ところが不思議なことに、字一本松というのが江戸時代には存在しなかつたことが判明したのである。写真は、吉田村古図(京都大学総合博物館日本史学教室旧蔵古地図)と称されている江戸時代の古地図のうち、吉田南キャンパス帯の部分である。正確な作成年は不明であるが、尾張藩邸が出来た文久二年(一八六二)以前であることは間違いない。キャンパス範囲内の字は、地藏北、西之辻、馬場前などであった。ただ、字林に二本の松が生えた塚が描かれ、学内の発掘調査で中世の経塚であったことが確認されている。

一方、『京羽二重織留』に、「名樹」として「二本松」を、「東河原弥勒堂と吉田との間にあり、いにしへ春日大社の社をくわんじょう(勧請)せし所也」として、他の江戸時代の地誌書類の多くも同様の紹介をしている。この二本松の正確な位置は不明であるが、白川馳道あるいは白川道と称し、荒神橋から北東へ向かい、本部構内を斜断して北白川へと通じた道沿いに表現している古地図がある。江戸時代の地誌学者、地図作製者として名高い森幸安作の『京師内外地図』(国立公文書館)内閣文庫(寛延三年(一七五〇)作)には、吉田神社の西南西付近に「一本松」と「二本松」を



吉田村古図(吉田一本松町付近)

描き、その名称を記入している。一本松は地誌書類では知られないので疑問が残るが、この付近ではある。
おそらく次のような経緯を想定するのが妥当であろう。明治九年に字の統廃合を実施した際、先に記したような

多くの字のどれかを採用するという一般的な方法ではなく、別にこの付近に所在し、名樹として著名であった二本松を字名とした、という過程である。
それにしても、二本の松が生えた塚は気になる表現である。

吉田南キャンパスの構内は、これまで総合人間学部構内と呼ばれ、それ以前には教養部構内と称されていた。住所としては、京都市左京区吉田一本松町であり、官有地(国有地)の部分には地番が付されなかつたために地番はない。平成十五年度の高等教育研究開発推

進機構の発足と、人間・環境学研究所への総合人間学部の部局としての統合の機会に、吉田南キャンパスと呼ぶことにしたものである。地名を用いて「二本松町キャンパス」と称するのも案であったが、人間・環境学研究所の方々の意向も受けた結果であった。

左京区吉田一本松町の地名は、大正七年(一九一八)に左京区が上京区から分離した時点から使用されているが、それ以前は、明治二十一年(一八八八)にこの地が上京区に編入されて以来、上京区吉田町字二本松であった。さらには愛宕郡吉田村字二本松であった。

巻頭言

吉田南キャンパス前史

吉田一本松町の成立

副学長 金田章裕

Contents

巻頭言	1	A群科目に関する「学生による授業評価」	8
文II 副学長 金田章裕		文II A群科目部会長 高橋由典	
吉田南キャンパス前史	1	吉田南キャンパスの風景	10
モチベーション	2	学術情報メディアセンター (みんなはこう使っている!!)	12
文II 基礎教育専門委員会委員長 北村隆行		文II 京大生協学生委員会学生委員長 高橋岳志	
授業紹介		リニールアル吉田南構内	14
未来のからだを科学する	3	全学共通教育教務情報システムの紹介	16
講義「体力医科学」によるこそ!		「教養」考	17
文II 人間・環境学研究科教授 石原昭彦		文II 副機構長 林哲介	
地球科学実験	6		
文II 人間・環境学研究科 地学部会			

Motivation

モチベーション

基礎教育専門委員会委員長 北村 隆行

京都の町には千年を越える歴史が作り上げた独特の陰翳があるとされます。京都に生まれ育った私にも、不思議に思う場所や季節ごとの多彩な行事・習慣が沢山あります。京都大学の歴史は、町のその10分の1ほどの短いものですが、真摯な基礎学術の追求による町の息遣いと同化し、その立体的構造が大学の魅力となつていきます。

さて、皆さんは、京都大学を選ばれたときにその陰翳に漠然とした憧れをもたれたのではないのでしょうか。具体的には、ノーベル賞、フィールズ賞、あるいは、哲学環境、生命、宇宙……。ここで思い浮かべたキーワードは各個人で異なつていても、世界と自分の将来を結び架橋が臉の奥にあるでしょう。しかし、ほとんどの人が入学後の遠くない時期に無力感を持つてしまいます。現実と理想が遠いからでしょうか？講義に価値を見出せないからでしょうか？

そんなときには、気分を変えて吉田、宇治、桂に続く第4のキャンパスを訪問してみませんか。そうです、サイバーキャンパス（インターネット）でも一度あなたの憧れの源泉を探索してみます。もし、「化学」が好きだったら、福井先生や野衣先生の「ノーベル賞」でしょうか。検索エンジン、「ノーベル賞、福井、化学」など適当な言葉を入れて関連サイトを探すと、先生の生い立ち

やエピソードなど……。山ほど情報があります。それらのホームページ（HP）を片っ端から斜めに眺めましょう。京大のHP（キャンパス）ではない。そんなことは気にする必要ありません。ここで大事なことは、難しそうな聞きなれない用語を取り出すことです。「フロンティア軌道？」

今度はこの用語を検索エンジンに入れて調べてみます。また、山ほどリストが出てきます。もうとわかりやすそうな説明を保存しておきます。するとさらに難解な用語が……。LUMO……。HOMO……。今度はこれらについて検索しましょう。肝心なことは用語にこだわること、少しの忍耐です。ほんのいくつかの難解な用語について説明を見つけると、福井先生の研究の「通」になつてきたことを自覚するでしょう。大学の勉強ではその「こだわり」が大切なのです。それは、あなただけの学術的陰翳（深み）形成の最初の一步。発端は、宇宙ロケットのような具体的対象でも、ギリシア哲学のような抽象的对象でも結構です。ただし、いくつもの憧れを一度に検索しては駄目です。ひとつに絞ります。

この検索を繰返す過程で気づくことがあるでしょう。ひとつは、京都大学のいずれかの研究室等のHPが検索結果リスト上に現れてきたでしょう。「第4キャンパスにようこそ」といつわけです。遠慮なく入っ

て、研究だけではなく教官の顔などもみてゆきましよう。ついでに周囲の研究室も、少しずつ足を伸ばすと、第4キャンパスがかなり大きく、そこにも基礎学術的陰翳が色濃く反映されていることがわかるでしょう。

もうひとつ気づくことがあります。全学共通科目の講義の中に関連ある用語が出てくるでしょう。そうなんです。憧れは意外と近いところにあり、あなたはすでにその端緒を握っているのです。講義に無力感をもったときには、「ひとつだけ」憧れを取り出してみてください。

全学共通教育においてこのような専門教育に密接につながる科目を基礎科目と言います。その整備のための委員会（基礎教育専門委員会）があります。華麗な建造物（各個人の理想）に対して、地味ではあるが強固な基礎を作るのが我々の役目です。基礎科目について気づいたことや意見があれば、「基礎教育専門委員会」宛に共通教育推進部を通じて送ってください。



工学研究科 教授
北村 隆行
(きたむら たかゆき)
1954年京都生まれ
専門分野：材料強度物性学
趣味：出張（とくに海外が好き）

授業紹介

未来のからだを科学する

講義「体力医科学」にようこそ！

「体力医科学」では、からだの仕組みや働きを解説して、環境の変化にからだができるように適応していくのかを考えます。人は重力のない宇宙空間で生活することができるのでしょうか。100年後に人のからだはどのように変化しているのでしょうか。体力医科学では、「未来のからだを科学する」ことを基本にしています。

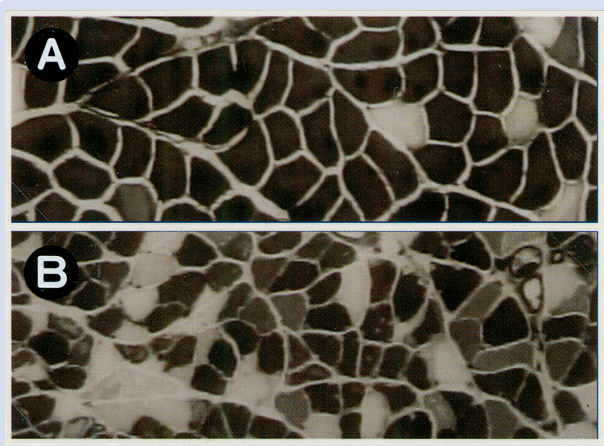
「つなぎ」と「かめ」の筋細胞

跳んだり走ったりするとき手足の筋肉は収縮して力を発揮します。筋肉は筋細胞からできています。この筋細胞は、大きな力は発揮できないが持久的に活動する「遅筋細胞」と大きな力を発揮できるがすぐに疲労する「速筋細胞」に分けられます（図1A）。立ったり歩いたりするときには遅筋細胞が活動して、一方、全力疾走や最大努力による筋活動では速筋細胞が働きます。動物にたとえるならば、遅筋細胞は「かめ」、速筋細胞は「つなぎ」になります。このようにミトコンドリアの筋細胞の存在にまつていっ

も合理的・効率的な筋力の発揮が行えます。人の手足の筋肉には、遅筋細胞と速筋細胞がほぼ同じ割合で含まれています。しかしながら、一流のスポーツ選手については、短距離選手の太腿の筋肉は速筋細胞の割合が高く、長距離選手の手筋は遅筋細胞の割合が高くなっています。ミトコンドリアのような「流選手」にみられる筋細胞の偏りは遺伝的なものでしょうか？ または運動、環境、栄養などにより後天的に得られたものでしょうか？

どこまで若返られるか？ 老化すると手足の筋肉が萎縮します。特にうさぎ型の速筋細胞の萎縮が顕著になります。これについては、老化に伴い大きな力を発揮しなくなることに伴う廃用性の萎縮によるものが解っています。したがって、若い

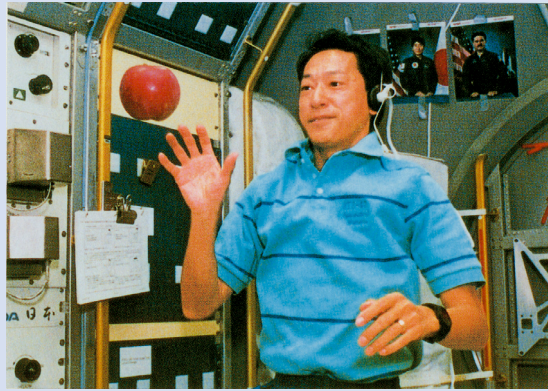
頃から運動を継続してきたミスターズ高年齢（の運動選手や力仕事を必要とする高齢者では、うさぎ型の速筋細胞を使用しているために廃用性の萎縮が認められませんが、それではこのような若い筋肉は何歳まで維持することができるのでしょうか？



1 地上で飼育したラットのヒラメ筋(A)と2週間の宇宙飛行直後のヒラメ筋(B)の横断面。ヒラメ筋は抗重力筋であり、速筋細胞(白色)に対して遅筋細胞(黒色)の割合が高い。宇宙飛行によって筋細胞(特に速筋細胞)の萎縮が認められ、遅筋細胞が速筋細胞の性質を持つような変化が起こります。

大学院人間・環境学研究科
認知・行動科学講座助教授
石原 昭彦 (いしはら あきひこ) 岐阜市生まれ
専門は神経化学、生理学。夢は宇宙旅行。
趣味は酸素シャワーカプセル。

授業紹介
未来のからだを科学する



スペースシャトル内の毛利宇宙飛行士。無重力により頭部に流れる血液量が増大して顔が腫れ上がっています（ムーンフェイス）。ムーンフェイスが生じることでより宇宙酔いや作業能力の低下が生じます。

図5

100年後の骨格
 現代人は、柔らかいものを食べることや咬む回数が少ないことなどによって咬筋が萎縮して、あごの骨格が脆く小さくなっています。日本の研究者のシミュレーションでは、100年後には頭部は逆三角形をした骨格になると予想されています（図6）。また、文明の発展によって筋

水症状になる（そのために地上に帰還する直前になると2リットルの水を飲まなければならない）ことや、骨を破壊する細胞が活発に働き骨粗鬆症になることなどが解っています。

宇宙でのからだの反応
 皆さんは無重力を体験したことがありますか。宇宙飛行士にならなくても特殊なジェット機に乗ってパラボリック（放物線）飛行を行えば、1回のパラボリック飛行で35秒間の無重力を体験できます（図2）。無重力下でマッチに火をつけるとどうなるでしょうか（図3）。炎は球形になりやがて消えます。これは、無重力では対流が起らないからです。また、水と油の入った容器をみると、地上では水と油は分離しますが、無重力下では比重の違いがなくなるために水と油が混合して白濁します。

図2

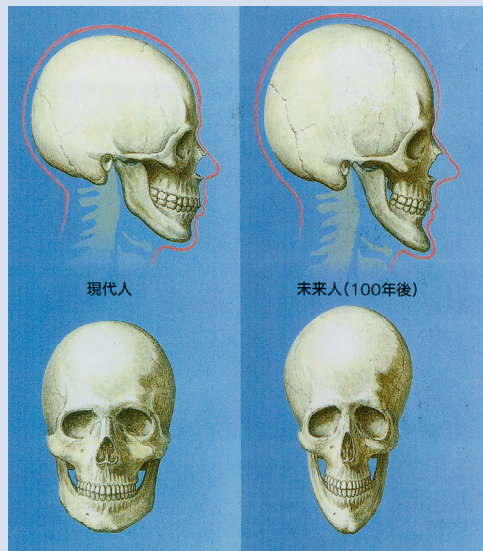
パラボリック飛行用の特殊ジェット機の内部（左）と外観（右）。無重力下での心電図、脳波、神経や筋の電気活動を記録します。このジェット機はオゾン層や皆既日食などの観測も行っています。



環境に滞在することによって、ヘモグロビンに結合する結合型酸素と血液中に溶け込む溶解型酸素が増大することが解っています。このような環境を作り出す装置として、酸素シャワー「カプセル」が開発されています。皆さんの血液はドロドロですか？それともサラサラですか？

図6

現代人と未来人の顔の骨の比較（雑誌Newton, 1996年）。現代人の顔は、そしゃく筋が退化して骨も脆くなり、下顎骨を横から見ると「く」の字形になっています。100年後にはそしゃく筋のつく頬骨と下顎骨がさらに退化します。頬骨は後方に下がり、下顎骨は「し」の字形になります。顔の幅は今よりも大幅に狭くなります。



現代人と酸素
 現代人は酸素不足に陥っています。また、糖尿病、高血圧、呼吸不全、心臓病や脳血管疾患などは酸素不足と大きく関係しています。酸素は若々しさや健康・体力を維持するために重要です。酸素不足を防ぐには高濃度酸素の吸入、人工血液の輸血などが考えられます。また、高気圧（1.2から1.3気圧）および高濃度酸素（30から35%）の環境に滞在することによって、ヘモグロビンに結合する結合型酸素と血液中に溶け込む溶解型酸素が増大することが解っています。このような環境を作り出す装置として、酸素シャワー「カプセル」が開発されています。皆さんの血液はドロドロですか？それともサラサラですか？

皆さんのからだは十分な酸素を含んでいますか？ 酸素を多く含んだ血液はサラサラしています。「体力医科学」でからだの素晴らしさや不思議さを考えてみましょう。そして、皆さんの健康や体力について見直してみましょ。

図3

地上でのマッチの炎（左）と無重力下での炎（右）。無重力下では対流が起らないために、炎は球形になりやがて消えます。

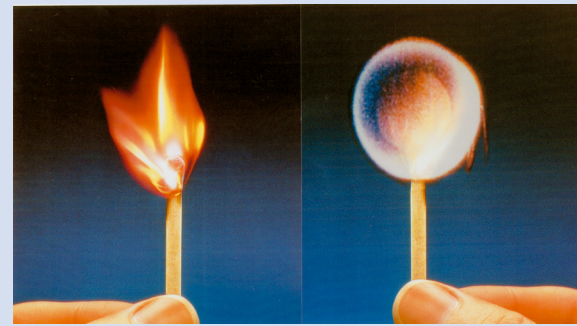


図4

大阪大学の大平充宣教授（左）と宇宙飛行士のロバート・サースク博士（右）。大平教授とは長年にわたり宇宙実験を行っています。サースク博士はスペースシャトルにより2度の宇宙飛行を行っています。



宇宙での滞在によってからだは劇的な変化を起します。研究室でも宇宙実験を行いそれらの変化を検討してきました（図4）。スペースシャトルによる2週間の宇宙飛行で筋細胞（特にかめ型の遅筋細胞）が20%から30%萎縮します（図1B）。また、遅筋細胞が速筋細胞の性質を持つような変化が起こります。無重力下では重力に抗して働く必要がないために、重力に抗して働く遅筋細胞が選択的に萎縮します。最も長期間にわたって宇宙に滞在した宇宙飛行士はロシ

アのポリアナコフ博士で438日です。地上に帰還したときには骨や筋はぼろぼろになっていました。それでは、宇宙に滞在することによって筋細胞はどこまで萎縮するのでしょうか？
 その他の宇宙空間でのからだの変化としては、身長が2cm以上も伸びたり、血液が頭部に多く流れるために顔が腫れ上がり、インゼイスになること（図5）が解っています。また、脱

授業紹介
地球科学実験

火星の「青い夕焼け」を求めて
火星では、大気中に巻き上げられるダストの粒径と屈折率の関係で、夕焼けが青くなると言われる。怪しげな装置は毒ガス製造装置ではなく、ダスト（要するに埃）をまきあげるための超小型火星大気製造装置である。見てくれは怪しくても心は火星。青い夕焼けを求めて、あらゆる埃をかき集めてまきあげる。「どつすれば青くなるのか？」との問いは、そのまま「あの赤い惑星の空には何が浮いているのか？」ということと同値なのだ。蚊取り線香の煙や、粉

吉田山の高さを測る
「吉田山の標高はどれが正しいの？」という新聞記事が掲載された。吉田山の三角点が頂上にないため、文献によって、さまざまな値が記載されているのが発端である。その議論に決着をつけるべく、山頂に水準点を設置し、正確な標高を計測した。実は、この新聞記事が掲載される二十年以上前から、京大構内と吉田山中腹までの水準測量を「地球科学実験」で毎年行っている。その測線の間には花折断層が走っている。次の京都大地震が起これば、このデータは貴重な資料になる。



A Simple Analogue Experiment to Account for Power-law and Exponential Decays of Earthquake Sequences

HIROSHI OGASAWARA¹

Abstract—An event rate decays either exponentially in earthquake aftershock sequences, suggesting different physics for the measured decays in the rate of acoustic emissions (AE) from a home cooking apparatus. Such AE are analogous to thermoelasticity is precisely analogous to poro-elasticity. Different heating rates and durations were specified in the experiment. The thermal properties were identical. Temperature decay both a power-law decay with a p value roughly 1.5 and an exponential decay. The stress at the AE source was estimated. In power-law decay, strength was recovered faster, in exponential decay, the change in strength during the initial power-law decay. It was demonstrated that the time constant of power-law decay if strength is constant.

power-law decay, thermoelasticity, poro-elasticity.

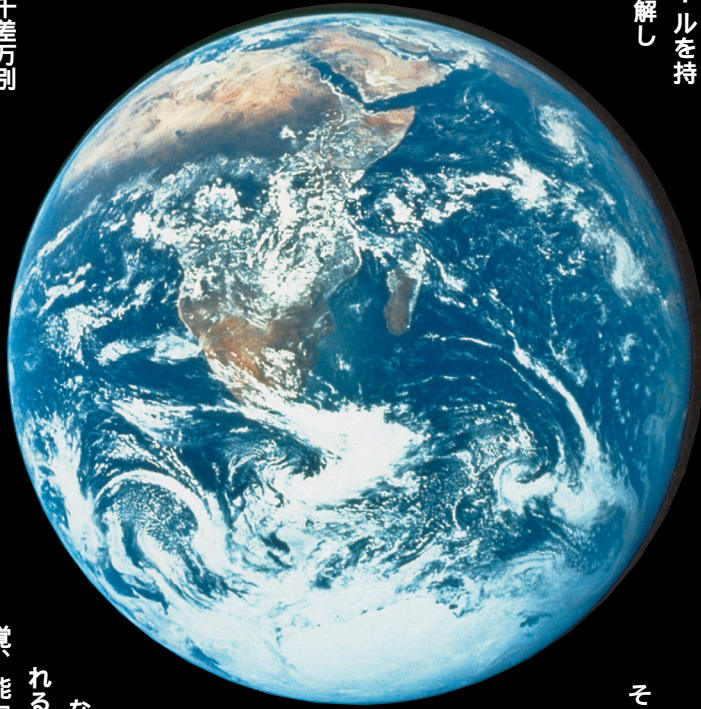
「LEGOで雲の高さを測る」
大気は上空に行くほど温度が低くなる。その中の雲も高いほど温度が低い。赤外線放射温度計で雲の温度を測れば、雲の高度がわかる。「LEGOを使う」のは、それが必要かつ十分だから。それでもこれで特許をとった。空港には雲の高さを測る高価な装置があるが、それに勝るとも劣らない性能である。ただし、空港で事故が起こった際、製造物責任法で訴えられても責任を負いきれないので、商品化は見送られた。
炊飯器の中に地球を見た
炊飯器のスイッチを切つて冷める時、パチパチという音がする。この音は、大きな音ほど頻度が少ない。この法則は、地球の地震に関して、グーテンベルグリヒターとして知られる経験則と同じである。炊飯器でもグーテンベルグリヒター則が成り立つことは「地球科学実験」で初めて明らかにされ、国際的な学術論文として掲載された。

授業紹介

地球科学実験

人間・環境学研究所 地学部会

地球はとても大きい。そして、その歴史はとてつもなく長い。地球環境問題への関心が高まり、「地球」という言葉はよく聞くようになった。しかし、人間からみて桁違いのスケールを持つ地球を、我々はどこまで理解しているのだろうか？
地球は複雑で、いろいろな側面を持っている。したがって、地球科学は多種多様な科学の集合体である。物理学、化学はもちろん、数学から生物学まで、必要とあればどんな知識でも使う。何が地球科学かと定義を問われると、答えに窮する。これは、地球がもともとすべてを含んだ存在だからだ。



とは、最も優れたアイデアそのものなのだ。地球とコミュニケーションが取れば、おもちゃであろうと何であろうと、立派な研究装置である。
そんな地球を扱う「地球科学実験」では、昔から教官の顔が見える少人数制にこだわりの続きしてきた。それは、地球を表現するには文字だけでは不可能で、地球に向かう教官の背中から、何かを感じてもらったことが不可欠であると考えているからである。
雄大な自然の前に、陳腐な言葉はいらない。圧倒される迫力は、持てるすべての感覚、能力を使って、全身で受け止めるしかない。そんな地球と会話するため、あらゆる感性、能力を磨いてほしい。



大学院人間・環境学研究所教授
高等教育研究開発推進センター教授
高橋 由典 (たかはしよしりのり) 1950年生まれ
専門は社会学

A群科目に関する「学生による授業評価」

A群科目部会長 高橋 由典

「A群の授業は全体的にB群よりもおもしろくて(私は工学部)、この調査用紙に書いた時、やっぱりさすがA群はすごいと思いました。」(工学部1回生)
「大学の教授なんて頭でっかちなだけで教えるなんてへたくそに決まっていると思ってました、どの先生も面白い、学生にわかりやすい授業をしてくれている気がします。話に興行きがあるので、さすがプロ!」と感想したりしますね!」(法学部1回生)

回答者は「A群科目に関し格別の関心と興味をもって」と想定される人たちだから、肯定的評価が多いからといって安心はできない。ただそのことを考慮に入れても、我々にとってなかなかうれしい話であることはまちがいない。

回答をながめてみると、A群科目の多様性を指摘する内容のものが多めに気づかされる。「講義によって難易度の差が激しい」(法学部1回生)、「自分の取っているA群の授業からして史学から心理学まで多岐にわたり、何とも一まとめに言い表すようなことは思いつきません」(文学部1回生)、「教官によるアタリ、ハズレが大きい」(理学部1回生)といった具合だ。

科目内容はもちろん、難易度も面白さも実に多様であるようだ。加えて「難しい」に感じられる授業が、他の人にとってはさほどでもなかったり、あるいは逆に「やさしすぎて退屈」であったりもする。「面白さ」についても事情は同様である。Aさんにとっての面白さは、必ずしもBさんにとっての面白さではない。学生諸君

回答もある。

表1 調査を実施した科目(担当教官)

哲学・思想系	倫理学基礎論 (佐藤義之)
	論理学基礎論 (安井邦夫)
歴史・文明系	東洋史学基礎論 (愛宕元)
	西洋史学基礎論 (川島昭夫)
	西洋史学基礎論 (島田真杉)
芸術・言語文化系	芸術学基礎論 (篠原資明)
	芸術学基礎論 (岡田温司)
	日本文学基礎論 (須田千里)
行動科学系	教育学基礎論 (岡田敬司)
	教育学基礎論 (小山静子)
	社会学基礎論 (吉田純)
	社会学基礎論 (大澤真幸)
	社会学基礎論 (高橋由典)
地域・文化系	人文地理学の基礎 (金坂清則)
	人文地理学の基礎 (小方登)
社会科学系	社会・経済システム原論A (間宮陽介)
	経済学基礎論A (大黒弘慈)
	現代国際政治論 (中西輝政)
複合系(A・B群)	科学論・科学史基礎論 (富田恭彦)
	精神保健学基礎論 (新宮一成)

京都大学における全学共通科目の実施責任部局は、人間・環境学研究所と理学研究科である。理系科目の「実施責任」は両部局にまたがっているが、文系科目(人文・社会系科目)、京都大学における呼称ではA群科目)のそれは、人間・環境学研究所に集中している。2003(平成15)年6月から7月にかけて、この人間・環境学研究所の文系学会(A群科目担当者集まり)が、「学生による授業評価」を実施した。その結果は報告書(2004年2月刊)にまとめてあるの

で、詳しくはそちらを見てもらうとして、ここでは学生諸君の回答内容から興味深いものをいくつかピックアップし、それらについてコメントするというかたちで話を進めたい。

「学生による授業評価」というと、学生諸君が教師の授業の仕方・内容について点数評価するといイメージだが、我々はそのような「授業評価」が本当に「教育改善」につながるかどうか、今ひとつ確信がもてなかった。そこで独自の方法をとることにした。と書くとかえらうが、つまりはともシンプルなり方にした。表1に示した授業の受講者に

その授業およびA群科目全体についてそれぞれ、日頃考えていること、感じていることを自由に書いてください」と求めたのである。今回のような試みは我々にとってまったく初めてのことであったので、とりあえず学生諸君の生の声を聞いてみようと思つたわけだ。以下ではスペースの関係上、A群科目全体についての回答だけを取り上げたい。

コメントを始める前に、回答を寄せてくれた学生諸君の数と内訳についてひと言。回答してくれたのは247人で、そのほとんど(91%)が1回生だった。表1の科目の全受講者は4000人を超えるだろうから、247という数は決して少ないように思える。これはおそらく、授業中に調査票を配布するが、記入と提出は各自にゆだねる という回収方式をとったせいだろう。このような面倒な手順を踏んで回答を寄越してくれる学生諸君は、A群科目に関し格別の関心と興味をもっていらっしゃるにちがいない。こうした人たち、つまりA群科目受講者のコアを形成している学生諸君の率直な意見を聞きたい。これがこの回収方式を採用した理由である。図1に回答者の

の感受性や興味の方向、あるいは理解力も多様なのだ。提供される科目も多様なら、それを聴く学生諸君も多様。そこでは多様性それ自体が一つの価値であるかのように、人々が動き、考え、行動している。A群科目というのは、(やや大げさに言えば)多様性の宇宙のようなものである。

理系の学問を学ぼうとする学生にとって、A群科目は必要だろうか。回答者自身のこととしてはこの問はあまり意味がないかもしれない。理系であれ、文系であれ、彼らは「必要」と考えるからこそ授業に出ているのだから。では理系学生一般についてはどうか。回答者は彼らとA群科目との関係をどう見ているだろうか。典型的な回答例をいくつか拾ってみよう。

「私は文学部なのでA群科目にはわりと興味もてるが、理系の人達はA群(の単位)が足りない」と言っている(文学部1回生)

「私は文系だからか、A群科目に興味があるものはたくさんありますが、理系の友達などに聞くと、A群科目にはほとんど魅力を感じないそうです」(経済学部1回生)

「理系の学生にとってA群科目は単位をとるために仕方なく、空いている時間に入れるものと考えられている」(理学部1回生)

どうも理系学生は一般的にA群科目に気乗り薄のようである。彼らの受講意欲をかきたてるにはどうしたらよいだろう。教える側が授業の仕方や内容を工夫する、というのが、最もわかりやすい解だ。だがだれでもが思いつくこうした解には強力な反論がありうる。その科目に興味・関心のない学生に向かつて、いくら工夫を重ねたところでほとんど無意味である。飲みたくもない水を無理やり飲ませることなどできない、というものだ。今ここでこうした議論の優劣を判断することはできない。ただこの問題の重要性自体は疑いえないので、今後も考え続けていく必要があると思う。

回答を全体としてみてみると、レジュメやシラバスのこと、あるいは休講とか遅刻のことなどといった技術的な問題の指摘は思いのほか少なかった。当初の期待通り、授業内容についての率直な反応が目立った。その意味で我々の目論見はある程度成功したのではないかと思う。

今回の「学生による授業評価」を実施するにあたって、学生諸君への依頼文に「(我々自身は)それぞれの専門と教育理念に即してよい授業を提供しよう」という共通の志を持って」と書いていた。回答者の一人がそれを読んで、「失笑を禁じえない」との正直な感想を記してきた。彼(ないし彼女)が経験している授業の現実と、依頼文のトーンとの生真面目さがいかにもつりあわない。そのギャップがあまりに大きくて、つい失笑してしまった、ということだろう。むしろこの人は揶揄しているのではなく、「創意工夫と努力」によって現実を越えていってほしいと要望する文脈で記している。たしかにA群科目の現実には、こうした反応が出てきてしまう側面もあるかもしれない。しかしながら、外見はどうであれ、我々が右に述べた「共通の志」をもって、このことは事実なのだ。この回答者が勧めてくれているように、「創意工夫と努力」を倦まずたゆまず重ねて、よい授業を提供できるよつにしてゆきたいと思う。

学生諸君は総じてA群科目についてどのような感想を抱いているか。「A群科目はバリエーションが豊かで、どの授業もとても面白いです」(文学部1回生)という人から、「あんまり意味がなく、時間の無駄であるからやめるべきである」(農学部1回生)という人まで多様だが、今回の247人に関して言えば、肯定的評価の方がずっと多かった。中には次のように我々の背中を押してくれるような

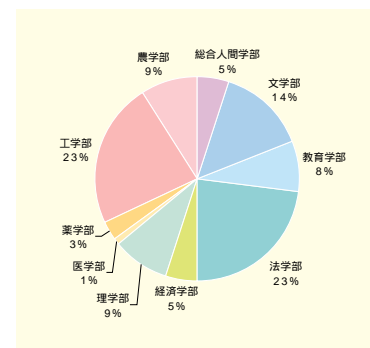


図1 回答者の学部別構成

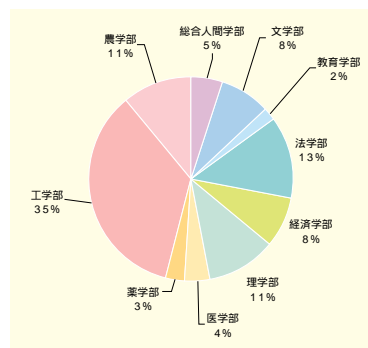
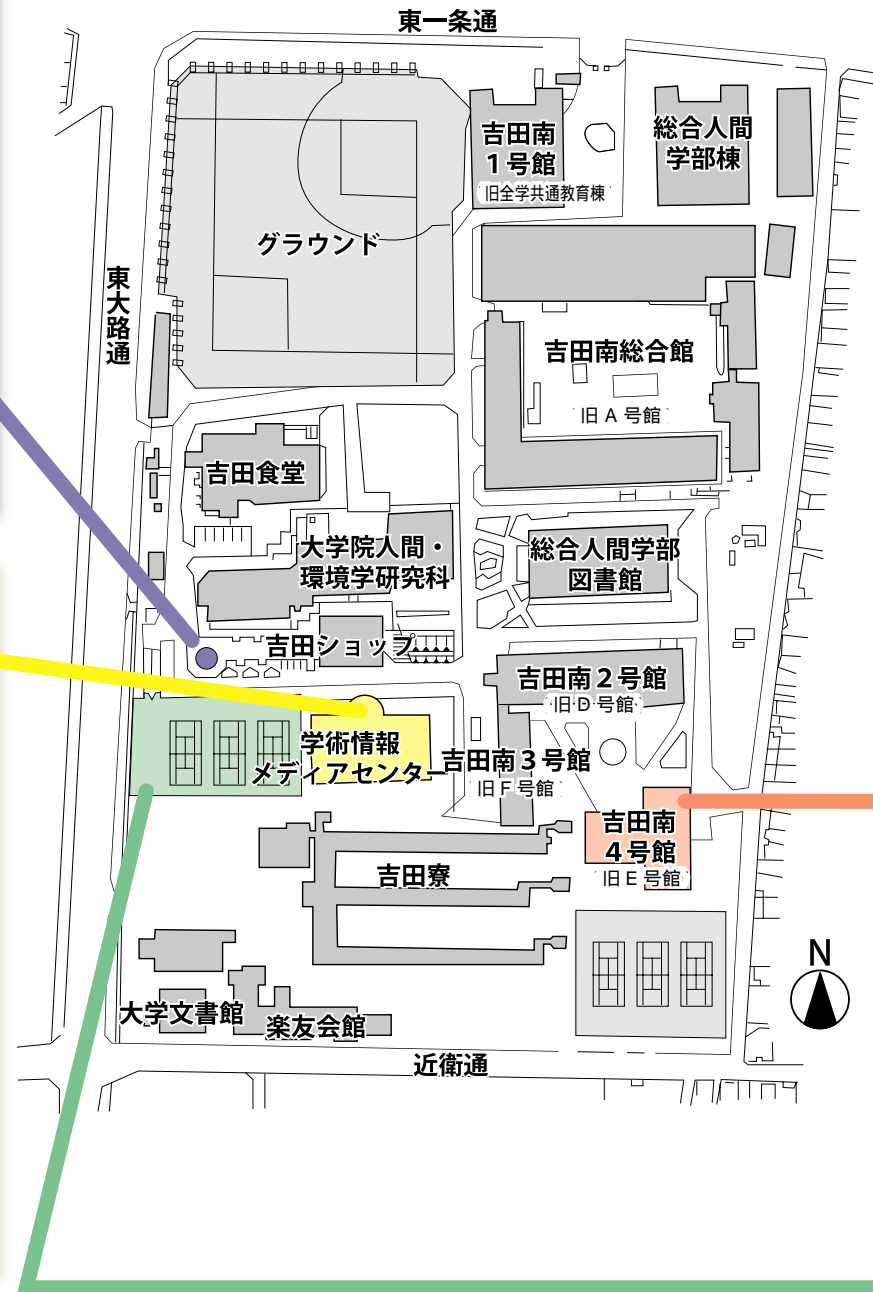


図2 学生定員の学部別構成

無機質で堅い印象があるキャンパスの中にも、四季折々の表情がある。写真は吉田ショップの西側にある木立を11月の下旬に撮影したもの。春は満開の桜、夏は強い日差しに輝く緑、秋は色とりどりの紅葉、冬はちらほらと舞う雪…。



学術情報メディアセンターで、パソコンを活用して行われている授業。京大でも高度情報化でコンピュータの重要性は高まっていて、理・工学部の計算機実習から語学の授業まで、さまざまな授業にコンピュータが使われている。



吉田南キャンパスの風景

全学共通科目のほとんどが開講される吉田南キャンパス。東一条通を隔てて、時計台記念館のある本部キャンパスの向かい側にある吉田南キャンパスには、目立つシンボルや8階建てのタワー校舎はないものの、総合人間学部図書館などの歴史的な建物やスポットが数多くあります。ここでは、吉田南キャンパスでの風景カットを紹介します。



200人以上も収容できる、吉田南4号館の大教室で行われている授業。京大の全学共通科目ではたくさんの教員によって、さまざまな科目が開講されている。このような大教室での講義から、実験・実習、そして少人数でのゼミなど、内容も授業形態も多岐に渡っていて、授業選びに頭を悩ますけど楽しい。

テニスコートで練習に汗を流す学生たち。吉田南キャンパスにはテニスコートや吉田グラウンドの他に、BOXと呼ばれるサークルの部室も多くあり、学生のサークル活動も盛んだ。サークルの数も数え切れないほどあり、新入生にとっては選ぶのが大変だが、そんなときは入学手続きで配られた「サークル紹介冊子」を活用しよう。



★★★使い分け派★★★

大多数の人はこれに属するのでは？ 用途に応じて OSL と自分のパソコンを使い分ける「使い分け派」です。

私のノートパソコンは結構重いので、大学に持ってくることはほとんどありません。だから、昼休みといった空き時間に OSL でインターネットやメールチェックができるのはとても便利です。あと休講情報をチェックするのも使っています。

下宿でインターネットが使えないので、タダでインターネットが使える OSL は助かります。またレポートなどは下宿で自分のパソコンで作って、OSL に持ってきて印刷することが多いです。「ネットとプリントは OSL で」という使い方をしている人はかなり多いかと思えます。

★★★マイパソコン派★★★

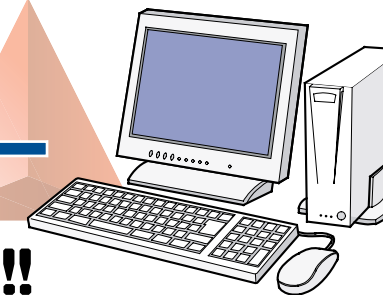
ほとんど全部の作業を自分のパソコンでこなし、メディアセンターを使うのは授業くらい、という「マイパソコン派」です。

下宿にパソコンが2台あって、ADSL 回線も引いているので、メディアセンターを利用するのは授業で使うときくらいです。一人で使えるディスクスペースなど中級以上の人には物足りないところもありますが、「あ、いけない。このレポート今日までだった」など突然必要になったときにありがたいです。

実はこの記事執筆した私もこの「マイパソコン派」です。イラストを描いたり写真を加工したり、自分の趣味や娯楽で使うときは自分のパソコンのほうが便利なのです。でも左の意見と同じく、突然レポートや課題を思い出したときは OSL に駆け込みます。

メディアセンター

みんなはこう使っている!!



吉田南キャンパスの中でも皆さんがよく利用する施設の1つ、「学術情報メディアセンター」。ここでは、全学共通科目や専門科目の授業で使うコンピュータールームの他に、京大の構成員であれば誰でもパソコンを利用できる「オープンスペースラボラトリー (OSL) があります。休み時間になるとパソコンのところに順番待ちの列ができるほど利用されている OSL ですが、京大の学生たちはどのように使っているのでしょうか？

★★★メディアセンター派★★★

パソコンの作業は何でもメディアセンターの OSL でやる、という「メディアセンター派」です。

自分のパソコンを持ちたくてもまだ持てない私にとって、メディアセンターの OSL は強い味方です。レポート書きはもちろん、インターネットでの情報収集にも活用しています。ほぼ毎日のように OSL は利用していて設備面には満足していますが、個人で使える容量を増やし、24 時間オープンにしてほしいです。

私は自宅生で、自宅のパソコンは家族共用なので、自分で自由に使うことができません。その点、いくつかの制約はありますが空いていれば自由に使える OSL はとても便利です。また、私は Word と Excel、インターネットくらいしか使わないので OSL で十分です。

リニューアル 吉田南構内



吉田南総合館（北棟） A号館に愛着を持っていた方は少々残念かもしれませんが、こんな素敵な建物になりました！

創刊号で新しく建った全学共通教育棟を紹介したところですが、その隣のA号館が立て替えられたことに伴い、吉田南構内の建物名称が一部変更されることになりました。新しい建物は吉田南総合館(北棟)という名称です。授業が始まり久しぶりに大学へ来たら、教室がわからなかった・・・など、混乱する方も多いと思いますので、新しくなった吉田南構内の配置図を紹介します。ちなみに“全学共通教育棟”は吉田南1号館という名称になりました。

4月から 吉田南構内が変わります！

吉田南構内建物名称変更表

新	旧
吉田南総合館	A号館
吉田南1号館	全学共通教育棟
吉田南2号館	D号館
吉田南3号館	F号館
吉田南4号館	E号館
総合人間学部棟	1号館

吉田南構内は教室の数がとても多いので覚えるのが大変です。その上、4月は教室変更が非常に多いので間違えることもあるかもしれません。そのようなことがないように毎日掲示板をチェックして下さい。授業を受けに教室に行ったら、教室が変更になっていて誰もいなかった。。。ということがないように、ね。

吉田南構内教室名称変更表

吉田南総合館(旧A号館)		
	平成16年度	旧
地階	共南01	A南01
	共南02	A南02
	共南03	A南03
1階	共東11	A101
	共東12	A102
	共東13	A東12
	共東14(CALL自習室)	A東13
2階	共南11	A南11
	共東21	A203
	共東22	A東22
	共東23	A東23
3階	共西21	A西21
	共東31(LL)	A301
	共東32	A303
	共西31	A西31
	共西32	A西32
	共西33	A西33

吉田南2号館(旧D号館)		
	平成16年度	旧
1階	2共10	D10
	2共11	D11
2階	2共20	D20
	2共21	D21
3階	2共30	D30
	2共31	D31
4階	2共40	D40
	2共41	D41

吉田南4号館(旧E号館)		
	平成16年度	旧
1階	4共10	E10
	4共11	E11
	4共12	E12
2階	4共13	E13
	4共14	E14
	4共20	E20
3階	4共21	E21
	4共22	E22
	4共23	E23
4階	4共24	E24
	4共30	E30
	4共31	E31



まずは…4月からWeb掲示板スタート!



掲示板情報が学外からも見られる(全学共通科目専用ID・パスワード要)サービスが開始されます。携帯からのアクセスも、もちろんOKです。

URL <http://www.k.kyoto-u.ac.jp>

これから、どんどん便利になりますので、URLをごまめにチェックしましょう。

平成16年度中には学生用マイページもでき、自分に関係のある情報だけをゲットできます!

知りたい情報をもっと早く! もっと便利に!

全学共通教育教務情報システム(仮称)をだいま開発中

朝一番の授業、眠い中、せっかく大学に来たのに急に休講になっていた・・・という経験はありませんか?

授業とるのに、なんでこんなにめんどくさい手続きをいっぱいしなきゃならないんだ、って思いませんか?

このわかりにくい授業のシラバス、何とかならんのか、と頭にきたことありませんか?

あげくのほてには、こんな手続きどうでもええやん、と思ってサボったら、エライ目にあっただ人も多いのでは?

なんで京大ってこうなんやろ、と思っていた人は少なくないはず。もちろん、大学当局もそれにまったく気がついてなかったわけじゃないのです。「なんとかせい」という声は以前からあるにはあったのですが、巨大な組織の悲しさで、長年同じようにやってきたことを変えることは、並大抵のことじゃありません。特に、京大は自由を尊重する反面、組織的に動くことはいたって苦手なので、いろいろな方面での調整がつかず、「なんとかせい」という声は、いつの間にか暗闇に消えていたのです。

そんな全学共通科目の事務がようやく今年から大きく変わります。といっても、やっぱり巨大な組織なので、いっぺんには行きませんが、1~2年の間に大きく変わるはずですよ。まず、

掲示板がWeb化され、学外からも見られるようになります。4月当初は現在の掲示板情報、ほぼそのままWeb上に載るだけです。夏休みまでには、個人のマイページができて、自分に関係のある(受講科目に関係のある)情報だけを表示できるようになります。休講通知を携帯電話にメールすることもできるようになる予定です。また、あの悪名高きシラバスが電子化され、たとえば「月曜日の2コマ目、あいてるんやけど、何か自然系の講義はないかな」と検索することができるようになります。本日は、検索したら、その場で登録までできるというのですが、これは17年度からの実施を目指して準備中です。

もちろん、単に手続きを電子化しただけでは、これまでの問題を必ずしも解決することにはなりません。コンピュータシステムも既製品をポンと買ってくるようなことはせず、京大の学生ベンチャー企業にシステムの設計構築を依頼し、あくまで学生の立場で使いやすいシステムを、事務と学生が相談しながら作り上げる作業を進めています。さらに、不評の多かった事務の窓口対応も学生の目線に対応できるよう改革中です。というわけで、すべてが変わるには少し時間がかかりますが、もうしばらくお待ちを・・・もう、単位とっちゃった人、ごめんなさい。

全学共通教育の中心的な役割として「教養教育」がある。西欧で Liberal Arts と呼ばれたこの「教養教育」がどんなものでどうあるべきかについては、日本だけでなく欧米でも昔からずっと議論されてきた。日本の大学設置基準には「・・・幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する・・・」とあって、これが共通のうたい文句になっているが、その内容や方法は大学によってまちまちで、また時とともに変化している。教養教育というからには「教養」というワードから考えなければならぬ。広辞苑によると「単なる学殖・多識とは異なり、一定の文化理想を体得し、それによって個人が身につけた創造的な理解力や知識。その内容は時代や民族の文化理念の変遷に応じて異なる。」とある。読み返すたびに大事な説明だと思いが、いますこしもの足りない感じもする。

「教養」考

以前に周りの先生方と議論したとき、教養教育とは「無駄」を学び、「無駄」を楽しむことだ」という比喩的な言い方をして納得したりした。ところが最近では「もつと役に立つ教養教育を」というような声が聞こえてきたりする。大学の外からだけでなく理系学部の先生の中にもこのようにいう人もいるが、京都大学の伝統はむしろ前者の方だと思ふ。しかし、

「無駄を学ぶ」というだけではどうも説得力が乏しい。あるときには「教養とは大学で勉強したことをすっかり忘れてしまった後に残るもの」と説明してみたこともあった。しかしこれでもまだ内容がはつきりしてはいない。昨年からは一歩すすめて京大の教養教育に「学術的教養」という言葉を用いることにした。ガイダンスでは、「あらゆる学問が人間にとってどのような意味をもつのかを問うこと」であると説明してみた。しかし、まだまだもつと「教養教育」の内容を明確にとらえてみたいが、このことは学生諸君と一緒に考えていくことだと思つている。議論する機会を是非つくりたい。

(副機構長 林哲介)